

ローマ 4 黙想質問

毎日、神の御言葉に触れる時、次の質問に答えましょう。これらの質問は、聖書の学びを通してイエスの弟子として成長することに集中するのに役立ちます：

- A. イエスから何を学びましたか。イエスは、私に何を語っていますか。
- B. 今日、私はどのようにイエスに従いますか。
- C. この学びを通して、私はどのようにイエスのようになれるか。

この章において以下の単語が使用されるたびに、下線を引いてください：
義、義とみなされる、義と認める、信じる、信仰。

ローマ 3:1-3

アブラハムには誇るべきことはありましたでしょうか

1 それでは、肉による私たちの先祖アブラハムのばあいは、どうでしょうか。2 もしアブラハムが行ないによって義と認められたのなら、彼は誇ることができます。しかし、神の御前では、そうではありません。3 聖書は何と言っていますか。「それでアブラハムは神を信じた。それが彼の義とみなされた。」とあります。

黙想質問：アブラハムには誇ることがあったのでしょうか。答えを説明して下さい。アブラハムはどのようにして神の前で義と認められたのでしょうか。

ローマ人への手紙 1:4-8

義は神からの無償の賜物なののでしょうか、それとも私たちが得るべきものなののでしょうか。

4 働く者のばあいに、その報酬は恵みでなくて、当然支払うべきものとみなされます。5 何の働きもない者が、不敬虔な者を義と認めてくださる方を信じるなら、その信仰が義とみなされるのです。

黙想質問：自らの義を確立しようと努める人々の考え方と期待について説明してください。自らの義を確立しようと努めるのではなく、信仰によって贈り物としてそれを受け取る人々の考え方と期待について説明してください。

ローマ 4 黙想質問

6 ダビデもまた、行ないとは別の道で神によって義と認められる人の幸いを、こう言っています。7 「不法を赦され、罪をおおわれた人たちは、幸いである。8 主が罪を認めない人は幸いである。」

黙想質問：神がダビデを義と認められたとき、ダビデはその体験をどのように表現しましたか。（ローマ 7-8節は詩篇 32:1-2 からの引用であり、これはダビデが姦淫を犯した後の祈りです。）

ローマ人への手紙 4:9-12

神の約束は割礼を受けた人々だけのものでしょうか。

9 それでは、この幸いは、割礼のある者にだけ与えられるのでしょうか。それとも、割礼のない者にも与えられるのでしょうか。私たちは、「アブラハムには、その信仰が義とみなされた。」と言っていますが、10 どのようにして、その信仰が義とみなされたのでしょうか。割礼を受けてからでしょうか。まだ割礼を受けていないときにでしょうか。割礼を受けてからではなく、割礼を受けていないときにです。

黙想質問：なぜパウロは、割礼を受けたユダヤ人と割礼を受けていない異邦人の両方が、信仰によって神の御前で義と認められ、義となることができると教えるのでしょうか。アブラハムはどのように義が認められたのでしょうか。

11 彼は、割礼を受けていないとき信仰によって義と認められたことの証印として、割礼というしるしを受けたのです。それは、彼が、割礼を受けないままで信じて義と認められるすべての人の父となり、12 また割礼のある者の父となるためです。すなわち、割礼を受けているだけでなく、私たちの父アブラハムが無割礼のときに持った信仰の足跡に従って歩む者の父となるためです。

黙想質問：義はどのように私たちに認められるのでしょうか。洗礼の前か後か、どちらで義が認められるのでしょうか。「私たちの父アブラハムの信仰の足跡をたどる」とは、どう言う意味でしょうか。

ローマ 4 黙想質問

ローマ人への手紙 4:13-17

なぜ神の約束は律法を通してアブラハムに与えられなかったのでしょうか。

13 というのは、世界の相続人となるという約束が、アブラハムに、あるいはまた、その子孫に与えられたのは、律法によってではなく、信仰の義によったからです。14 もし律法による者が相続人であるとするなら、信仰はむなしくなり、約束は無効になってしまいます。15 律法は怒りを招くものであり、律法のないところには違反もありません。

黙想質問：なぜ神の約束は律法を通してアブラハムに与えられなかったのでしょうか。もし約束が信仰によらず律法を通して与えられたならば、アブラハムとその子孫は「無益となり、約束は無効となる」はずではなかったのでしょうか。

16 そのようなわけで、世界の相続人となることは、信仰によるのです。それは、恵みによるためであり、こうして約束がすべての子孫に、すなわち、律法を持っている人々にだけでなく、アブラハムの信仰にならう人々にも保証されるためなのです。「わたしは、あなたをあらゆる国の人々の父とした。」と書いてあるとおりに、アブラハムは私たちすべての者の父なのです。17 このことは、彼が信じた神、すなわち死者を生かし、無いものを有るものようにお呼びになる方の御前で、そうなのです。

黙想質問：神がアブラハムに与えられた約束は、なぜ「信仰によって」与えられたのでしょうか。「アブラハムの信仰」を持つとは、どのような意味なのでしょうか。

ローマ 4 黙想質問

ローマ人への手紙 4:18-22

アブラハムはどのようにして信仰を強めたのでしょうか。

18 彼は望みえないときに望みを抱いて信じました。それは、「あなたの子孫はこのようになる。」と言われていたとおりに、彼があらゆる国の人々の父となるためでした。19 アブラハムは、およそ百歳になって、自分のからだ死んだも同然であることと、サラの胎の死んでいることを認めても、その信仰は弱りませんでした。20 彼は、不信仰によって神の約束を疑うようなことをせず、反対に、信仰がますます強くなって、神に栄光を帰し、21 神には約束されたことを成就する力があることを堅く信じました。22 だからこそ、それが彼の義とみなされたのです。

黙想質問：神様はアブラハムにどのような約束をなされたのでしょうか。その約束が人間の力では到底叶うはずのない状況において、アブラハムはどのようにして神様を信じ続けられたのでしょうか。

ローマ人への手紙 4:23-25

義はどのようにして私たちに「認められる」のでしょうか。

23 しかし、「彼の義とみなされた。」と書いてあるのは、ただ彼のためだけでなく、24 また私たちのためです。すなわち、私たちの主イエスを死者の中からよみがえらせた方を信じる私たちも、その信仰を義とみなされるのです。25 主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。

黙想質問：ローマ人への手紙第4章から、イエスを信じる私たちに義がどのように「認められる」のかについて、どのようなことを学びましたか。キリストの死と復活を信じるのが、どうして私たちが神の御前で義とさせるのか、説明してください。